

# 彙報

会長 福井直樹

## ——常任委員会——

### 2021年度第2回常任委員会

日時：2021年10月23日（土）13:00～17:00

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）有田節子，上山あゆみ，太田真理，奥 聡，北原久嗣，北原真冬，桐生和幸，酒井 弘，菅原彩加，成田広樹，原田なをみ（以上，常任委員），石井 透（事務局長）

オブザーバー：江畑冬生（大会運営委員長），呉人 恵（編集委員長），那須川訓也（広報委員長），田中真一（夏期講座委員長），酒井 弘（学会賞選考委員長），上山あゆみ（倫理副委員長），佐々木冠（国際発信力強化小委員長），秋庭大悟，小林ゆきの（以上事務局委員）

#### [審議事項]

- (1) 今期の組織・役員について
  - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
  - ・以下の予定が報告された。
  - 第164回大会（2022年春季大会）：2022年6月18日～19日，オンライン（大会実行委員長：未定）
  - 第165回大会（2022年秋季大会）：2022年11月12日～13日，沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡 敏氏）
- (3) 各種委員会からの報告
  - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) GEAHSS 運営委員会からの報告
  - ・9月18日（土）に運営委員会が行われたことが報告された。
- (5) 言語系学会連合からの報告
  - ・第163回大会で開催予定の言語系学会連合（UALS）共催公開特別シンポジウム

について詳細が報告された。

#### (6) 事務局からの報告

1. 学会から外部の賞への推薦者についての彙報への記載方法について
 

『言語研究』の彙報では推薦者の指名を記載せず、「推薦者を決定した」と記載する。
2. 会費免除について
 

令和2年（2020年）梅雨前線豪雨等による災害で被災された会員の方に対する2021年度の会費を免除する。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響で修学の継続が困難になっている学生会員に対する2021年度の会費を免除する。

#### [審議事項]

- (1) 編集委員会からの提案事項について
  - ・執筆要項について，提出用テンプレートの指示内容と統一するための改定，規定分量に関する改定，投稿原稿の種別と定義に関する改定が提案され，その内容をそれぞれ検討し承認した。査読要領について，改定案が提案され，その内容を検討し承認した。
- (2) 倫理委員会内規について
  - ・倫理委員会の内規の改定について検討した。検討内容を踏まえ倫理委員会で再度検討を行い評議員会で提案することを決定した。
- (3) 倫理綱領について
  - ・倫理綱領の改定について評議員会で提案することを決定した。
- (4) シニア会員制度について
  - ・シニア会員制度の導入のための素案が提案され，その内容を検討した。今回の議論をもとに素案の修正案を作成し，評議員会で提案することを決定した。
- (5) 『言語研究』の刊行月変更に伴う変更事項について
  - ・『言語研究』の刊行月の変更に伴い，奥付に記載する発行日の変更，彙報に記載する入会者数の集計期間の変更，公開入札の公示・開札の時期の変更が提案され，

承認した。

### 2021年度常任委員会臨時審議

日時：2021年12月7日（火）メール配信  
2021年12月17日（金）審議終了  
方式：メール審議

#### [審議事項]

- (1) シニア会員制度導入に伴う会則の改定について【別記】
- ・シニア会員制度の導入に伴う会則の改定案について臨時のメール審議を行い承認した。

## ——評議員会——

### 2021年度第2回評議員会

日時：2021年11月19日（金）15:00～17:00

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、青木博史、有田節子、五十嵐陽介、石井 透、伊藤たかね、上野善道、内堀朝子、江口 正、江畑冬生、大沢ふよう、萩野綱男、奥 聡、尾谷昌則、小野尚之、小野 創、風間伸次郎、梶 茂樹、河内一博、菊澤律子、北原久嗣、木部暢子、Catt Adam、久保智之、窪齒晴夫、窪田悠介、呉人 恵、小泉政利、小林正人、近藤泰弘、斎藤衛、酒井 弘、佐々木冠、下地理則、杉崎鉦司、田窪行則、竹沢幸一、千田俊太郎、塚本秀樹、中川 裕、中谷健太郎、長屋尚典、那須川訓也、野田尚史、長谷川信子、林 徹、林 範彦、広瀬友紀、堀江 薫、松浦南男、松本 曜、山越康裕、由本陽子、吉田和彦（以上、評議員48名）

委任状：15名

オブザーバー：上野善道、梶 茂樹（以上、顧問）、藤代 節、米田信子（以上、会計監査委員）、田中真一（夏期講座委員長）  
秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

#### [報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
- ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
- ・以下の予定が報告された。  
第164回大会（2022年春季大会）：2022年6月18日～19日、オンライン（大会実行委員長：未定）  
第165回大会（2022年秋季大会）：2022年11月12日～13日、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡 敏氏）
- (3) 各種委員会からの報告
- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告
1. 学会から外部の賞への推薦者についての彙報への記載方法について『言語研究』の彙報では推薦者の指名を記載せず、「推薦者を決定した」と記載する。
  2. 会費免除について  
令和2年（2020年）梅雨前線豪雨等による災害で被災された会員の方に対する2021年度の会費を免除する。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響で修学の継続が困難になっている学生会員に対する2021年度の会費を免除する。
  3. 『言語研究』の刊行月変更に伴う変更事項について  
奥付に記載する発行日を発行月の25日から発行月の末日へと変更する。彙報に記載する入会者数の集計期間を変更し、1月号は4月～9月、7月号は10月～3月分を掲載する。公開入札の公示・開札の時期を3月上旬公示、4月上旬開札に変更する。

#### [審議事項]

- (1) 倫理委員会内規について
- ・倫理委員会の内規の改定案について検討し、承認した。一部の事項は次回以降の評議員会で引き続き検討することとなった。

- (2) 倫理綱領について
- ・倫理綱領の改定案について検討し、承認した。
- (3) シニア会員制度について
- ・シニア会員制度の導入のための素案が提案され、その内容を検討し、承認した。今回の議論をもとに会則の改定案を作成し、2022年4月発足を目指し後日メール審議およびオンライン投票することを決定した。

#### 2021年度評議員会臨時審議

日時：2021年12月17日（金）メール配信  
2022年1月16日（日）審議終了  
方式：メール審議およびオンライン投票

#### [審議事項]

- (1) シニア会員制度導入に伴う会則の改定について【別記】
- ・シニア会員制度の導入に伴う会則の改定案について臨時の審議を行い、オンラインでの投票の結果、全評議員の3分の2以上の賛成により承認された。

#### ——編集委員会——

- (1) 『言語研究』160号（2021年9月刊行）への掲載は、特別寄稿論文1本（Noam Chomsky 博士）、特集論文3本、一般論文4本、フォーラム3本の計11本となった。161号（2022年3月刊行予定）への掲載は、会長記念講演論文1本、一般論文6本の計7本となった。
- (2) 『言語研究』164号では、「文字と音韻論」というテーマで特集論文を募集することに決定した。原稿締め切りは2022年8月31日。
- (3) 近年、学会における倫理的配慮が一層求められてきていることに鑑み、『言語研究』においても初回投稿の際に、倫理項目に関する質問の導入を開始した。
- (4) 『言語研究』の投稿原稿の分量、カテゴリー等の見直しをおこない、「執筆要項」に若干の改訂を加えた。あわせて、「執

筆要項」と和文・英文テンプレートの指示内容を統一するための改訂もおこなった。

#### ——大会運営委員会——

#### 2021年度第2回大会運営委員会

日時：2021年9月9日（木）13:00～15:30  
場所：オンライン

出席者：江畑冬生（大会運営委員長）、柴崎礼士郎、星英仁、金廷珉、品川大輔、浅原正幸、大滝宏一、衣畑智秀、黒木邦彦、松浦年男、米山聖子（大会運営委員）

#### [審議事項]

- (1) 第163回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表41件（応募55件）、ワークショップ6件（応募6件）、ポスター発表5件（応募7件）を採択することとした。なお採否決定後に、口頭発表3件の発表辞退があった（いずれもやむを得ない理由によるもの）。
- (2) 第163回大会のプログラム編成を行った。口頭発表は1日目に6会場の各6件ずつ（午前3件午後3件）とし、Zoomミーティングで開催することを決定した。さらに各発表をセッションに振り分け、司会者候補を決定した。
- (3) 1日目の口頭発表終了後にoViceを用いてポスター発表を行い、同じ会場で引き続き懇親会を開催することを決定した。
- (4) 2日目の午前中にワークショップを割り当て、午後に会長挨拶・授賞式・会員総会・会長就任講演及び公開特別シンポジウムを行うことを決定した。
- (5) 第163回大会での大会参加証の発行や運営委員内での役割分担に関して協議した。

#### ——広報委員会——

1. 学会からのお知らせ（大会情報、論文賞、

発表賞、学会プロジェクト、『言語研究』などと学会関連情報（公募情報、研究会情報など）を随時更新した。

- 「日本語学会広報委員会SNS運用方針」を学会ウェブサイトに掲載した。
- TwitterとFacebookで、学会からのお知らせを随時発信した。
- YouTubeチャンネルで大会公開シンポジウムの動画を公開した。

### ——学会賞選考委員会——

#### 2021年度第1回学会賞選考委員会

日時：2021年9月13日～9月22日  
開催方法：メール審議

#### [審議事項]

2021年度の論文賞及び第162回大会における大会発表賞の選考を行い、論文賞については1名の受賞を、大会発表賞については2名の受賞を決定した。

#### 2021年度第2回学会賞選考委員会

日時：2021年12月20日～2022年1月7日  
開催方法：メール審議

#### [審議事項]

第163回大会における大会発表賞の選考を行い、1名の受賞を決定した。

### ——夏期講座委員会——

#### 2021年度夏期講座委員会

日時：2021年7月19日 10:00～12:30  
場所：オンライン会議

出席者：渡辺 己（委員長）、内堀朝子、木山幸子、田中真一、千田俊太郎、本多啓

- 夏期講座2022について、以下の4点を審議の上、決定した。
  - 1.1. 東北大学で2022年8月30日（火）～9月3日（土）（5日間）の日程で開催することを確認し、全面オンライン開催と

することを決定した。実行委員会として、木山幸子（実行委員長）、小泉政利、小野尚之、小川芳樹、大木一夫、内藤真帆、王軒、熊可欣の8名が報告された。

- 1.2. 開講9科目の講師を以下の通り決定した。

科目	講師
生成文法（中上級）	高野 祐二 金城学院大学
フィールド言語学（初級）	林 範彦 神戸市外国語大学
認知言語学（初中級）	上原 聡 東北大学
音声学（初級）	朱 春躍 神戸大学
社会言語学（中級）	仲尾 周一郎 大阪大学
形式意味論（初級）	楠本 紀代美 関西学院大学
歴史言語学（中上級）	アダム・キャット 京都大学
日本語文法（中上級）	加藤 重広 北海道大学
形態論（初級）	大関 洋平 東京大学

- 1.3. 受講料を以下の通り決定した。

学生会員： 5,000円

学生非会員： 10,000円

一般会員： 11,000円

一般非会員： 15,000円

- 1.4. 特別講演を八杉佳穂氏（国立民族学博物館名誉教授）に依頼し決定した。
2. 委員交代について、任期満了により2021年9月をもって渡辺 己（委員長：東京外国語大学）、本多 啓（神戸市外国語大学）の2氏の退任が報告された。10月から新委員として堀 博文（静岡大学）、古賀裕章（慶應義塾大学）、新委員長として田中真一（神戸大学）各氏の就任が確認された。
3. 夏期講座2024の開催校として神戸大学が提案され承認された。
4. その他事項として、夏期講座実行委員会の引き継ぎが、2021年9月24日13:00-15:00にオンラインで行われたことが報告された。

——倫理委員会——

(1) 2021年度の委員は以下のとおりである。

(2021年9月までの委員)

松本 曜	国語研 (委員長)
呉人 恵	富山大学
矢野雅貴	東京都立大学
折田奈甫	早稲田大学

(2021年4月～2022年3月までの委員)

上山あゆみ	九州大学
(副委員長；2021年9月から委員長)	
上田由紀子	山口大学
竹沢幸一	筑波大学
太田真理	九州大学

(2021年9月から2022年8月までの委員)

小林正人	東京大学 (副委員長)
宮本陽一	大阪大学
折田奈甫	早稲田大学 (再任)
大崎紀子	京都大学羽田記念館

(2) 2021年度は、7月28日と9月7日に zoom により委員会を行ない、あとはメールにより審議をした。

(3) 2021年度、倫理委員会では、倫理綱領を改訂し、具体的な処理の手順を定めた内規を策定し、常任委員会での審議を経て、評議員会で承認された。引き続き、英文版の作成に向け、作業を進めていく予定である。

——国際発信力強化小委員会——

(1) 2020年度に英訳された会長就任記念論文5本(田窪先生、梶先生、影山先生、上野先生、庄垣内先生)を Gengo Kenkyu Anthology Vol. 1 として2021年11月12日にJ-STAGEで公開した。新たに会長就任記念論文5本(柴谷先生、梅田先生、松本先生、小泉先生、国広先生)の英訳・校閲作業を進めている。2021年度末までに Gengo Kenkyu Anthology Vol. 2 として公開する予定である。

(2) 2021年12月18日に英文要旨作成ワークショップを実施し、49名が参加した。

## 【別記】「日本語学会会則」の変更

## ○第2章「会員」第10条

## 《旧》

- 第2章  
第6条 本会の会員は、通常会員、維持会員、賛助会員、名誉会員、学生会員の5種とする。
- 第7条 通常会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続（注）を経て、本会に登録された個人、および団体（図書館、研究室、書店等）とする。
- 2 通常会員は、所定の手続（注）を経て維持会員となることができる。
- 3 学生会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続（注）を経て、本会に登録された個人とする。

## ○第7条第3項、第4項注記

## 《旧》

- 第7条第3項の「所定の手続」について  
当年度の会費を納入すること。会費は年4,000円（在外会員も同額）とする。学生会員は、入会手続き時、および年度毎に当該年度有効の学生証のコピー、在学証明書など、学生の身分を証明するものを、ファックスあるいは通常郵便で、4月30日までに送付すること。

## 《新》

- 第2章  
第6条 本会の会員は、通常会員、維持会員、賛助会員、名誉会員、学生会員、シニア会員の6種とする。
- 第7条 通常会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続（注）を経て、本会に登録された個人、および団体（図書館、研究室、書店等）とする。
- 2 通常会員は、所定の手続（注）を経て維持会員となることができる。
- 3 学生会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続（注）を経て、本会に登録された個人とする。
- 4 シニア会員は、本会の趣旨に賛成し、所定の手続（注）を経て、本会に登録された個人とする。

## 《新》

- 第7条第3項の「所定の手続」について  
当年度の会費を納入すること。会費は年4,000円（在外会員も同額）とする。学生会員は、入会手続き時、および年度毎に当該年度有効の学生証のコピー、在学証明書など、学生の身分を証明するものを、ファックスあるいは通常郵便で通常郵便またはメールで、4月30日までに送付すること。
- 第7条第4項の「所定の手続」について  
シニア会員は、年度開始時点において満64歳以上で、当該年度の前年度まで10年以上継続して日本語学会に加入し、会費を納入していた通常会員・維持会員のうち、本人の申し出があった者とする。なお、災害などによる会費免除期間も、会費を納入した年度に含める。シニア会員になろうとする者は、原則として、当該年度の4月1日から4月30日までの間に、日本語学会事務支局宛に申請を行うものとする。会

費はシニア会員認定時に4万円を一括で支払うこととする。

シニア会員の期間は終身とする。退会を希望する者は、日本語学会事務支局宛に申請を行うものとする。事務支局からの郵送・メール等での連絡が不通の状態が2年間継続した場合、当該年度末日をもって退会したものとみなす。シニア会員期間の10年目に、引き続き会員継続を希望するか意向を確認する。なお、申請後10年未満で退会した場合でも、会費の差額を返金することはしない。

申請時点で直近10年以上継続して会費を納入している満65歳以上の会員は、74歳から申請年度時点での満年齢を減じた年数に、4千円を乗じた金額を支払った場合、シニア会員に認定する。満74歳以上の会員は、満63歳になる年度を含むそれ以前の10年間継続して会費を払っており、満64歳の年度から継続して10年間以上会費を払っている場合、会費を徴収せずにシニア会員に認定する。なお、既に納付している会費を返金することはしない。満64歳以上の会員で、満63歳になる年度を含むそれ以前の10年間継続して会費を払っていなかった会員は、その欠けた年度数に7千円を乗じた金額を払い、かつ満64歳から現在の満年齢に至る間に会費を払っていない年度数に4千円を乗じた金額を払った場合、シニア会員に認定する。

## 第 163 回大会

期日 2021 年 11 月 20 日 (土)・21 日 (日)

会場 オンライン (Zoom および oVice)

公開特別シンポジウム 11 月 21 日 (日) 14:15 ~ 17:15

「データベースをつくる・つかう：課題と展望」

司会：成田 広樹

菅原 彩加

北原 真冬

大関 洋平

(S-1) 容認性判断アーカイブの開発と応用

ディスカッサント：上山あゆみ

(S-2) CHILDES データのつくり方・つかい方と自然発話研究の役割について

野村 潤

ディスカッサント：杉崎 鉦司

(S-3) 日本語諸方言コーパスの構築と活用—パラレル音声コーパスの可能性—

木部 暢子

ディスカッサント：小西いずみ

## 口頭発表

—第 1 日 (11 月 20 日 (土)) 10:20 ~ 15:50—

## ◦ A 会場

(A-1) 10:20 ~ チュヴァシ語の後置詞 *valli* に先行する名詞・代名詞の格について 菱山 湧人(A-2) 11:00 ~ On the functions of evidential markers in Tuvan narrative texts Norikazu KOGURA  
Arzhaana SYURYUN

(A-3) 11:40 ~ 満洲語文語の具格接辞選択に伴う数的有界性 山崎 雅人

(A-4) 13:20 ~ ウズベク語における補助動詞 *tur-*「立つ」/*yot-*「横たわる」  
*yur-*「動く」/*o'yir-*「座る」の差異 日高 晋介

(A-5) 14:00 ~ キルギス語の「始動」を表す補助動詞 アクマタエフ・ジャクシク

(A-6) 14:40 ~ 日本語母語話者とアラビア語母語話者の謝罪の意識の対照比較  
—謝罪をする側と謝罪を受ける側の意識に焦点を当て—

ハミ・フェイン・ターリク

(A-7) 15:20 ~ 現実性・非現実性の対立とアラビア語方言における二要素  
否定の発展 熊切 拓

## ◦ B 会場

(B-1) 10:20 ~ 保安語における自動詞主語の格標示 佐藤 暢治

(B-2) 11:00 ~ ジンボー語における文法化のクライン 倉部 慶太

(B-3) 11:40 ~ ドマーキ語の動詞による名詞修飾と「定動詞」 吉岡 乾

(B-4) 13:20 ~ 「曲声調」とは何か：マサテク語アヤウトラ方言の曲声調  
から 中本 舜(B-5) 14:00 ~ ドマリ語エルサレム方言のセミスピーカーにおけるウムラ  
ウト 北村 萌(B-6) 14:40 ~ 共通日本語アクセントは二型アクセントか：情報理論から  
の観点 竹村亜紀子

ヘラル・トマ

(B-7) 15:20 ~ 日本語複合語アクセントにおけるアクセント句のまとまり  
やすさと後部要素の語種の関係 桑原 咲弥  
松原 理佐

## ◦ C 会場

(C-1) 10:20 ~ ケチュア語アヤクーチョ方言における 2 つの「来る」：動詞  
*bamu* と方向接尾辞 *-mu* 諸隈 夕子

(C-2) 11:00 ~ 「自由語順」再考：ナワトル語とスペイン語の分析から 佐々木充文



- (C-3) 11:40 ~ オリヤ語における、同一格制約の効力が「ない | ある | 強くある」構文 山部 順治
- (C-4) 13:20 ~ ベンガル語動詞 pôra (おちる) の多義構造の分析 石川さくら
- (C-5) 14:00 ~ XX 構文の多義構造：名詞の場合 小田 希望
- (C-6) 14:40 ~ 分断・破壊事象を表す動詞「切る」のカテゴリー構造とその習得—力動性のモデル・心理実験・コーパスデータに基づく検討— 王 鈺
- (C-7) 15:20 ~ 目的を伴う主体移動表現と動詞の負荷特性：関連事象アプローチの観点から 陳 奕廷
- D 会場
- (D-1) 10:20 ~ 全称選言の尺度推意と分配推論 徐 子程
- (D-2) 11:00 ~ 「から」として」の出現環境とその意味的・語用的特徴 窪田 愛
- (D-4) 13:20 ~ 「より」比較文再考 水谷 謙太  
田中 英理
- (D-5) 14:00 ~ 日本語の 2 種類の類別詞 於保 淳
- (D-6) 14:40 ~ 北琉球沖縄語今帰仁謝名方言における除括性 (clusivity) 下地 理則
- E 会場
- (E-1) 10:20 ~ 日本語埋め込み節の繫辞と項省略 中野 晃希
- (E-2) 11:00 ~ 間接疑問縮約は in-situ focus から派生する 松本 大貴
- (E-3) 11:40 ~ 日本語における分離 CP 構造と終助詞「わ」の補部選択 森山 俊成
- (E-4) 13:20 ~ 英語の外置現象に関する一考察—非能格動詞の主語名詞句を中心— 中村 直樹
- (E-5) 14:00 ~ 自他交替を許す英語非対格動詞の習得におけるインプット頻度の影響 中島 基樹  
野地 美幸
- (E-6) 14:40 ~ なぜ指示詞はつねに複数の代替形と統語範疇を有するのか 平田 未季  
趙 文騰
- (E-7) 15:20 ~ 中国語の連合複数表現 “PN-men” と “PN ta-men” の差異 について  
テ・ホハ<sup>o</sup>イラ・ハ<sup>o</sup>ハ<sup>o</sup>・ドウ<sup>o</sup>グラス・エンリク 島 健太
- F 会場
- (F-3) 11:40 ~ 分散形態論と V-N タイプ二字漢語動名詞 長谷川拓也
- (F-4) 13:20 ~ A visual-world eye-tracking study on the cognitive processing for demonstratives in Japanese Yusuke SUGAYA
- (F-5) 14:00 ~ 文処理における音読み語と訓読み語での音韻プライミング効果の非対称性 松原 理佐
- (F-6) 14:40 ~ キュー呼び出しモデルにおける干渉効果とキューの卓立性について 祐伯 敦史  
中野 陽子
- (F-7) 15:20 ~ なぜ日本人英語学習者は「3 単現 -s」が苦手なのか：「文法性の錯覚」からの検討 山田 敏幸

ポスター発表

—第 1 日 (11 月 20 日 (土)) 16:00 ~ 17:00—

- (P-1) The structure of Japanese reduplicated compounds: insights from apophony Maelys SALINGRE
- (P-2) プリヤート語分詞の定動詞化は一方向の変化か：主節述語における定動詞・分詞の「中和」 山越 康裕
- (P-3) 日本語の一人称空目的語の生起制限について—コーパスを用いた定量的分析— 宮崎 真奈  
折田 奈甫  
高橋 大厚

- (P-4) 中国語の条件疑問文における問題払拭効果について 伊藤さとみ  
王 芸嫻
- (P-5) Japanese psychological adverbs in the scope-based theory of  
adverb licensing Kaori MIURA

## ワークショップ

—第2日(11月21日(日)) 9:40～11:40—

## ◦ワークショップ1

- (W-1) 評価の意味と文法現象 企画者・司会者：堤 良一  
(W-1-1) 反復的観察と評価の意味 大江 元貴  
(W-1-2) 複数性と評価の意味 岩男 考哲  
(W-1-3) 確定性・指示性と評価の意味 堤 良一  
(W-1-4) 非明言と評価の意味 西村 英希

## ◦ワークショップ2

- (W-2) 最後のアナログ言語調査資料：危機に瀕した言語データの発掘と救出  
司会者：加藤 重広  
中川 裕  
コメンテーター：塩原 朝子  
米田 信子
- (W-2-1) なぜいま言語データの救出が必要か 加藤 重広  
(W-2-2) デジタル化とアーカイブ化の実相：コイサンと琉球の事例 加藤 幹治  
(W-2-3) データのアーカイブからできること：発掘的研究の可能性 木村 公彦  
(W-2-4) 土田データ：台湾原住民危機言語・方言のデータ 塩原 朝子  
(W-2-5) 湯川データ：120を超えるバントゥ諸語の並行的データ 米田 信子  
(W-2-6) 菅原データ：初のコイサン自然会話コーパス 中川 裕  
加藤 幹治  
木村 公彦

## ◦ワークショップ3

- (W-3) 日本諸語の形成に関する総合的アプローチ大陸倭語・八  
丈型基層語・アクセントの分布と機能の3つの観点から—  
企画者・司会者：風間伸次郎  
コメンテーター：斎藤 成也
- (W-3-1) 朝鮮半島における言語接触と大陸倭語 伊藤 英人  
(W-3-2) 八丈型基層言語と日本語の重層性 風間伸次郎  
(W-3-3) アクセントの分布と機能からみた日本諸語の歴史 平子 達也

## ◦ワークショップ4

- (W-4) 項の具現化と意味の所在：周縁的構文への多角的アプローチ  
企画者・司会者：于 一楽
- (W-4-1) 日本語における統語的名詞化と項構造に関する一考察 白杵 岳  
(W-4-2) 英語における非典型的な項の具現化—場所主語構文を中心  
に— 工藤 和也
- (W-4-3) 中国語における非典型的な主語構文—「マラソンが20 kmを  
走った」はなぜ言えるのか— 于 一楽  
(W-4-4) ハンガリー語における非典型的な項の具現化—「痺れ」は  
どこからやってくるのか— 江口 清子

。ワークショップ5

- (W-5) アルタイ型言語における節連結の意味とその形式的特徴  
 企画者：蔡 熙鏡  
 司会者：山田 洋平  
 コメンテーター：吉岡 乾
- (W-5-1) モンゴル語の動詞接辞 *-xAAr* 山田 洋平
- (W-5-2) ウズベク語における時間的連続を表す節連結について 日高 晋介
- (W-5-3) ニヅフ語の節連結—意味と形式— 蔡 熙鏡

。ワークショップ6

- (W-6) 日琉諸語の疑問・不定表現をめぐる韻律的現象：類型論的  
 枠組みの提案と通時的考察  
 企画者：佐藤久美子  
 司会者：青井 隼人  
 コメンテーター：五十嵐陽介
- (W-6-1) 日琉諸語の疑問・不定表現における韻律的現象の類型化の  
 提案 佐藤久美子
- (W-6-2) 南琉球宮古語の疑問・不定表現におけるアクセントの交替 セリク・ケン
- (W-6-3) 疑問・不定表現における韻律的現象の通時的考察 中澤 光平

◇退 会

国内通常会員： 3名  
国内学生会員： 1名  
国内団体会員： 1名  
5名

◇入 会

国内通常会員： 29名  
国内学生会員： 11名  
40名



◇本学会の元会長であり顧問を務められた国広哲弥氏は、2022年2月6日に逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

## 2021 年度役員

### 【会長】

福井直樹

### 【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 窪蘭晴夫,  
柴谷方良, 田窪行則, 早田輝洋, 松本克己

### 【常任委員】

有田節子, 上山あゆみ, 太田真理, 奥 聡,  
北原久嗣, 北原真冬, 桐生和幸, 酒井弘,  
菅原彩加, 成田広樹, 原田なをみ

### 【事務局】

石井透 (事務局長), 秋庭大悟, 小林ゆきの

### 【評議員 (70名)】

青木博史, 有田節子, 五十嵐陽介, 石井透,  
伊藤たかね, 井上優, 上田功, 上山あゆみ,  
内堀朝子, 梅谷博之, 江口正, 江畑冬生,  
大沢ふよう, 大津由紀雄, 荻野綱男, 奥 聡,  
尾谷昌則, 越智正男, 小野尚之, 小野創,  
風間伸次郎, 加藤重広, 河内一博, 菊澤律子,  
岸本秀樹, 北原久嗣, 木部暢子, Catt Adam,  
桐生和幸, 金水敏, 久保智之, 窪蘭晴夫,  
窪田悠介, 呉人恵, 小泉政利, 小林正人,  
近藤泰弘, 斎藤衛, 酒井弘, 佐々木冠, 定延  
利之, 下地理則, 杉崎敏司, 滝浦真人, 田窪  
行則, 竹沢幸一, 千田俊太郎, 塚本秀樹,  
中川裕, 中谷健太郎, 長屋尚典, 中山俊秀,  
那須川訓也, 西村義樹, 新田哲夫, 野田尚史,  
長谷川信子, 林 徹, 林範彦, 早津恵美子,  
広瀬友紀, 堀江薫, 益岡隆志, 町田健, 松浦  
年男, 松本曜, 宮本陽一, 山越康裕, 由本  
陽子, 吉田和彦

### 【編集委員会】

呉人恵 (委員長), 青木博史, 安藤智子, 江畑  
冬生, 加藤重広, 小西いずみ, 小山哲春,  
土橋善仁, 中川裕, 長屋尚典, 野村益寛,

広瀬友紀, 宮本陽一

[特別編集委員]

Lisa Cheng, Wesley Jacobsen, 金周源, Terje  
Lohndal, Andrej Malchukov, Armin Mester,  
富岡諭

### 【大会運営委員会】

江畑冬生 (委員長), 浅原正幸, 大島  
デイヴィッド義和, 大滝宏一, 衣畑智秀,  
金廷珉, 黒木邦彦, 品川大輔, 柴崎礼士郎,  
白井聡子, 星英仁, 松浦年男, 米山聖子

### 【広報委員会】

那須川訓也 (委員長), 石田尊 (日本語ペー  
ジ webmaster), 大関洋平, 内藤真帆, 中川  
奈津子, 広瀬友紀, 安永大地 (英語ページ  
webmaster)

### 【夏期講座委員会】

田中真一 (委員長), 内堀朝子, 木山幸子,  
古賀裕章, 千田俊太郎, 堀博文

### 【学会賞選考委員会】

酒井弘 (委員長), 五十嵐陽介, 北原久嗣,  
北原真冬, 桐生和幸, 小林正人, 菅原彩加

### 【倫理委員会】

上山あゆみ (委員長), 小林正人 (副委員長),  
上田由紀子, 大崎紀子, 太田真理, 折田奈甫,  
竹沢幸一, 宮本陽一

### 【国際発信力強化小委員会】

佐々木冠 (委員長), 宇都木昭, 大関洋平,  
小野創, 塚本秀樹, 西村義樹, 広瀬友紀,  
渡辺己

### 【会計監査委員】

藤代節, 米田信子